

第17期警防科を実施しました

[期間] 令和3年11月4日（木）から11月16日（火）まで
9日間（72時間） 通学

[会場] 埼玉県消防学校

[到達目標] 警防行政の現状と課題を理解するとともに、各種災害事象に対する基本的消防戦術を理解し、災害現場においては部隊を適切かつ効果的に指揮できる。

[教育対象] 警防活動に従事する指揮・指導的立場の者で、消防大学校の教育訓練修了歴がない者

[修了者] 27消防本部(局) 64名（男性64名）





修了しての感想

警防科は9日間と言う短い期間の中、埼玉県内から64名の学生が「警防行政、基本的消防戦術、部隊の指揮、中・小隊長として知識技術の修得、指揮隊活動技術の修得」を共に学び、共に訓練をしました。

図上訓練、実技訓練は「情報を収集し整理・分析、判断、決断、命令、実行、評価」と目まぐるしく状況が変化していく中、私たちは数多く失敗したことで、様々な知識・技術が修得できました。また、副校長査閲として訓練最終日最後の総合訓練で指揮隊、中小隊連携のもと学生64名全員で実施し完遂できた事に、指導して下さった各講師をはじめ、支援教官及び助教官ならびに学校関係者の皆様方に感謝申し上げます。

所属に戻ってからは、警防科で学んだことを所属職員に還元して、少しでも市民の被害の軽減に繋がるよう努めてまいります。

後輩へのメッセージ

警防科に入校する皆様は各所属では中・小隊長や指導する立場の方で、ある程度年齢を重ねた方が入校してくると思います。

しかし、警防科に入校すれば1人の学生です。入校する事で今現在の自分の実力を知り、講義でいろいろな知識を得る事ができ、また実技では数多くの失敗を経験すると思います。失敗し、己の実力を知る事で全てをさらけ出し、各所属から入校してくる仲間たちと共に、助け合い、励まし合い、切磋琢磨しチームとして共に過ごして下さい。

修了しての感想

警防科は、9日間という短い期間でしたが、多くの知識を学生に持ち帰らせるという教官方の熱い思いが詰まった研修でした。

警防科入校には、多くの不安がありましたが、基本消防戦術中小隊長の現場指揮、指揮隊運用の座学から始まり、図上訓練実技訓練を段階的に繰り返し行うことで災害活動の一連の流れを理解し、現場指揮要領を習得することができました。

また、各消防本部から集結した学生は、現場経験が豊富な精鋭ばかりで、消防戦術や現場判断など学ぶべきことが多く、その仲間と訓練を共にできたことで私自身成長することができました。



警防科の教えの一つでもある「知識や技術の伝承」を早期に完了できるよう努力して参ります。

ご指導いただきました教官、助教官、講師、専科担当教官の皆様、副総代として支えて下さった総代及び学生の皆様に心より感謝申し上げます。

後輩へのメッセージ

警防科には、指揮隊、消防隊、救助隊として現場経験豊富な精鋭が多く集まります。その中には僅かですが、管理職となり日勤や救急から現場を指揮する立場に配置換えになった方もおります。

私自身、救急救命士として消防人生の多くを専任救急隊として勤務して参りました。現在は、中隊長兼小隊長として、現場を指揮する立場になりましたが、多くの不安があったのも事実です。

しかし、警防科で教育訓練を受けたことで、中隊長として指揮することへの自信に繋がり、新たなステージに挑戦する意識も高まりました。

「人命救助最優先、延焼阻止、安全管理」という活動方針の中には、とても深い意味があり、様々なことを考えて活動しなくてはならないことも、本課程で学ぶことができました。

これから管理職となる方は、ぜひ警防科で現場指揮要領の教育訓練を受け、すばらしい指揮者を目指していただきたいと思います。



入校式



入校式



講義「警防行政の現状と課題」



講義「警防対策Ⅰ・図上訓練技法」



図上訓練「中小隊長主眼の図上訓練」



実技訓練「中小隊長主眼の実技訓練」



実技訓練「指揮隊主眼の実技訓練」



実技訓練「指揮隊主眼の実技訓練」



実技訓練「総合訓練」



実技訓練「総合訓練」の講評